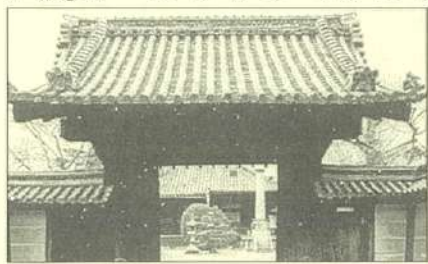


中世の宗教都市、江戸時代は一大商業都市に

寺内町とは、真宗の寺院を中心
に堀や土塁などで防衛した宗教自
治都市をいいます。富田林寺内町
(富田林市
富田林町
及び本町
の一部)は、
永禄初年
(1558
156
1)に誕生
しました。
京都興
正寺の証
上人が



訪れ、「荒芝地」を銭百貫目で購
入、近隣四ヶ村から8人の有力
者を集めて興正寺別院を建立
し、八人衆の合議制のもとで御
坊を中心とした町づくりが行わ
れました。
江戸時代には幕府の直轄地
となり、近くを流れる石川の
水運、東高野街道・千早街道が交
差する陸運に恵まれて、商業の
町として大いに発展。特に酒造
業が盛んで、寛文8年(166
8)の記録では、51職種、149
の店が軒を並べていました。
商いのみならず寺内町は文化

町並み(重要伝統的建造物群保存地区)

約450年前の

時間が今に、明日に



寺内町ができた頃は戦国時代の
さなか。町には戦乱を避ける知恵
が随所に生かされていました。町は
一段上がった大地のうえにあり、周
囲には土居をめぐらせて竹を植

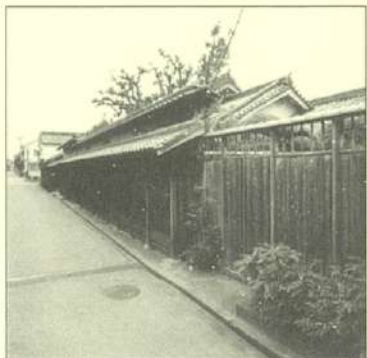
え、町筋の道と道は「あてまげ」
といつて半間ほど道をずらし、
見通しを妨げています。
寺内町にある建物約600棟
のうち200棟あまりが江戸か
ら昭和中期の建築です。このよ
うな近世の町割りや優れた意匠
の大規模な町家や寺院が連なっ
て残る景観が評価され、平成9
年(1997)に富田林寺内町地
区の一部が、平成30年(201
8)には地区全域が大府府で唯
一の「重要伝統的建造物群保存
地区」に選定されました。

の町として発展をとげます。杉山
家や御坊では能や浄瑠璃が盛ん
に興行され、町人の間では俳諧が
ブームとなりました。また周辺の
農家の前栽には葡萄が栽培され、
その葡萄でつくった酒を寺内町の
名産とするなど、寺内町には自由
で新しい時代を拓く気風が満ち
溢れていました。

寺内町点描

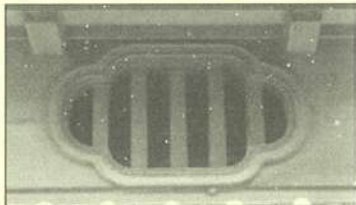
町並みの表情に見る

知恵・文化・暮らしぶり



◆虫籠窓

厨子二階(屋
根裏部屋)の明
かりとりと、風
通しのために設
けられたもの。
江戸時代は木瓜
型、幕瓜型、幕末
は扁平型。明治
以降は長方形に
なりました。



◆鬼瓦

屋根の装
飾に使われ
る鬼の顔を
表した瓦で
す。魔よけの
意味あいが
あります。



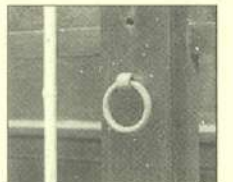
◆忍返し

防犯のため
に、塀の上に先
の尖った竹・木
を並べていま
す。



◆駒つなぎ

商用に訪れた
人が牛馬をつな
ぎました。商業都
市の名残がみて
とれます。



◆煙出し

かまどの煙を
外に出すために
つけられた越し
屋根です。



女流天才歌人・石上露子の生家 旧杉山家住宅 (重要文化財)



4層の大屋根
が特徴。寺内町の
創設期からの旧
家で、代々造り酒
屋を営み、南河
内の肝煎り役き
もいりやくを務
めました。
主屋は土間が
17世紀中頃と最も古く、享保19年(17
34)頃現在の形に整いました。
明治の終わり、堺の与謝野晶子らと活
躍した明星派歌人、石上露子(本名杉山
タカ)は明治15年(1882)当家で生ま
れました。敷地内の蔵には、露子ゆかりの
遺品を展示しています。

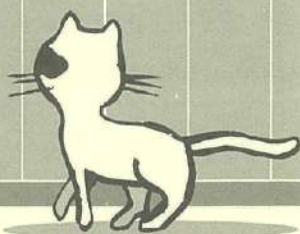
富田林寺内町の中心寺院 興正寺別院 (重要文化財)

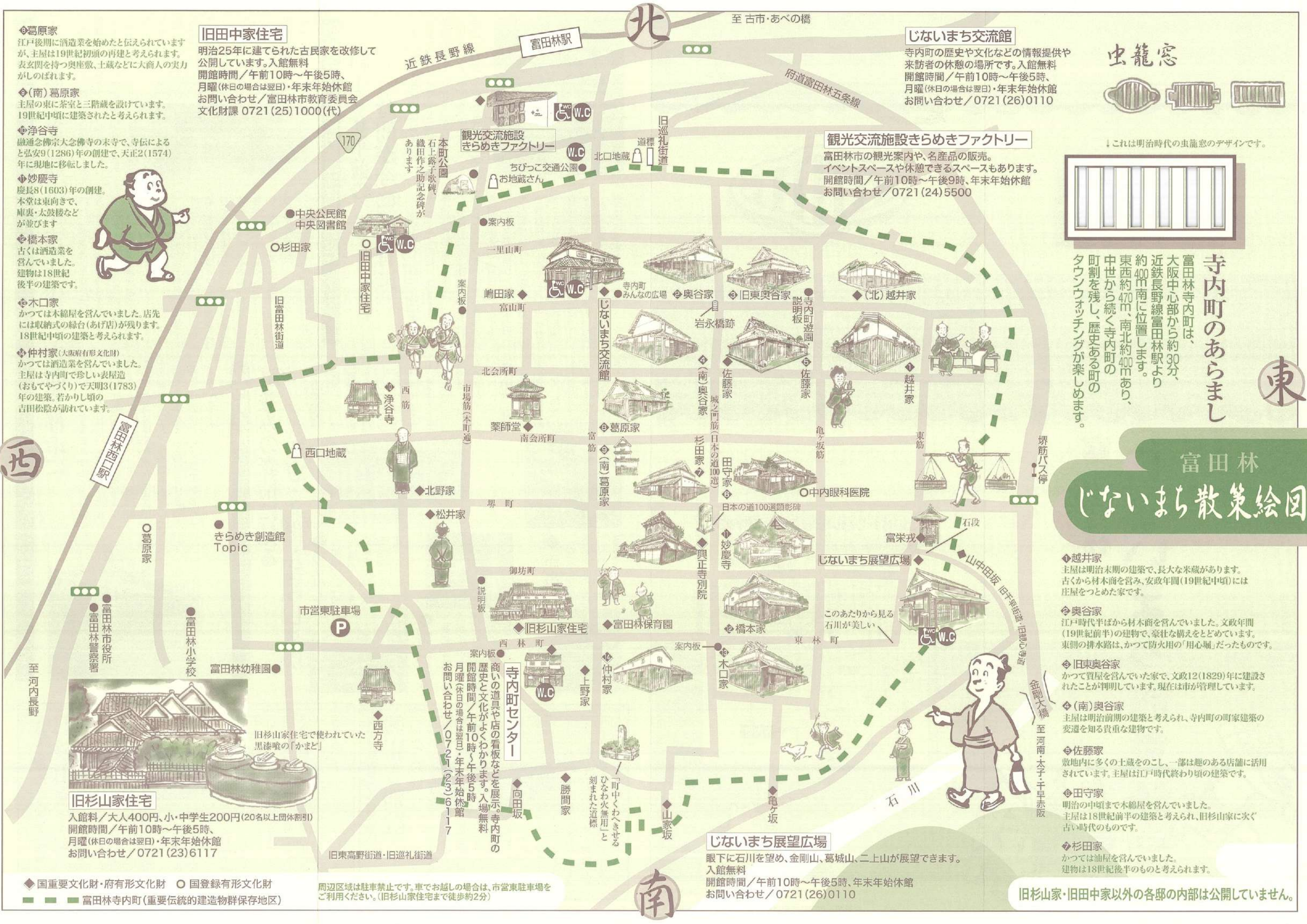


興正寺別院は
富田林寺内町の
開発に伴い建立
された寺院で、ま
ちのほぼ中央に
位置しています。
現在の本堂は、
寛永15年(163
8)に再建された
もので、大阪府内で最古の浄土真宗本堂
です。また、そのほかの主要な建物も江
戸時代後期から末期に建立されたもの
です。



富田林
じないまち
散策絵図





◆葛原家
江戸後期に酒造業を始めたといわれていますが、主屋は19世紀初頭の再建と考えられます。表玄関を持つ奥座敷、土蔵などに大商人の実力がしのばれます。

◆(南)葛原家
主屋の東に茶室と三階蔵を設けています。19世紀中頃に建築されたと考えられます。

◆浄谷寺
融通念佛宗大念佛寺の末寺で、寺伝によると弘安9(1286)年の創建で、天正2(1574)年に現地に移転しました。

◆妙慶寺
慶長8(1603)年の創建。本堂は東向きで、庫裏・太鼓楼などが並びます

◆橋本家
古くは酒造業を営んでいました。建物は18世紀後半の建築です。

◆木口家
かつては木綿屋を営んでいました。店先には取納式の緑台(あげ店)が残ります。18世紀中頃の建築と考えられます。

◆仲村家(大阪府有形文化財)
かつては酒造業を営んでいました。主屋は寺内町で珍しい表屋造(おもてやづくり)で天明3(1783)年の建築。若かりし頃の吉田松陰が訪れています。

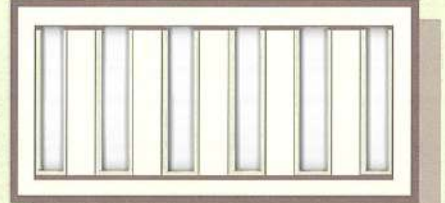
旧田中家住宅
明治25年に建てられた古民家を改修して公開しています。入館無料
開館時間/午前10時~午後5時、月曜(休日の場合は翌日)・年末年始休館
お問い合わせ/富田林市教育委員会文化財課 0721(25)1000(代)

じないまち交流館
寺内町の歴史や文化などの情報提供や来訪者の休憩の場所です。入館無料
開館時間/午前10時~午後5時、月曜(休日の場合は翌日)・年末年始休館
お問い合わせ/0721(26)0110

観光交流施設きらめきファクトリー
富田林市の観光案内や、名産品の販売。イベントスペースや休憩できるスペースもあります。
開館時間/午前10時~午後9時、年末年始休館
お問い合わせ/0721(24)5500



↓これは明治時代の虫籠窓のデザインです。



寺内町のあらまし
富田林寺内町は、大阪中心部から約30分、近鉄長野線富田林駅より約400m南に位置します。東西約470m、南北約400mあり、中世から続く寺内町の町割を残し、歴史ある町のタウンウォッチングが楽しめます。

富田林 じないまち散策絵図

- ◆越井家**
主屋は明治末期の建築で、長大な米蔵があります。古くから材木商を営み、安政年間(19世紀中頃)には庄屋をつとめた家です。
- ◆奥谷家**
江戸時代半ばから材木商を営んでいました。文政年間(19世紀前半)の建物で、豪壮な構えをとどめています。東側の排水路は、かつて防火用の「用心堀」だったものです。
- ◆旧東奥谷家**
かつて質屋を営んでいた家で、文政12(1829)年に建設されたことが判明しています。現在は市が管理しています。
- ◆(南)奥谷家**
主屋は明治前期の建築と考えられ、寺内町の町家建築の変遷を知る貴重な建物です。
- ◆佐藤家**
敷地内に多くの土蔵をのこし、一部は趣のある店舗に活用されています。主屋は江戸時代終わり頃の建築です。
- ◆田守家**
明治の中頃まで木綿屋を営んでいました。主屋は18世紀前半の建築と考えられ、旧杉山家に次ぐ古い時代のものです。
- ◆杉田家**
かつては油屋を営んでいました。建物は18世紀後半のものと考えられます。

西

東

北

南



旧杉山家住宅
入館料/大人400円、小・中学生200円(20名以上団体割引)
開館時間/午前10時~午後5時、月曜(休日の場合は翌日)・年末年始休館
お問い合わせ/0721(23)6117

周辺区域は駐車禁止です。車でお越しの場合は、市営東駐車場をご利用ください。(旧杉山家住宅まで徒歩約2分)

旧杉山家・旧田中家以外の各邸の内部は公開していません。

◆ 国重要文化財・府有形文化財 ○ 国登録有形文化財
■ ■ ■ 富田林寺内町(重要伝統的建造物群保存地区)